## 令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

			学校整理番号	37		
(1)学校教育目標	自ら主体的に学び、郷土を愛し、勤労を尊び、心豊かで未来を切り拓く調和のとれた産業人を育成する。		学 校 名	青森県立十和田工業高等学校		
		4	全日制の課程		校舎・分校	
(2)現状と課題	・ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導やキャリアサポートに根ざした進路指導に重点を置き、特色ある教育活動に取り組んでいる。 ・地域団体や関係団体と連携協力し、地域に根ざした技術者の育成に努めている。 ・生徒個々の希望進路実現に向け、基礎学力の定着及び専門的な基礎技術・技能の定着・向上を目指した、組織的な指導体制の強化構築を進める。	自	己評価実施日	令和7年1月20日(月)		
		学的	校関係者評価実施日	令和7年2月4日(火)		
(3)重点目標	1 地域から信頼され、郷土及び日本の未来を担う人材育成の学校づくりに努める。		(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成 学校運営協議会委員8名、(内、いじめ防止専門目名、PTA会長1名)			
	2 学習・部活動・学校行事等の教育活動において、きめ細かい指導を実践し、生徒と教職員の豊かな人間関係を基本に捉えて、社会の変化に即応できる資質と体力の向上に努める。					
	3 生徒や保護者、地域社会から信頼される教職員で、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に対応する教職員を目指す。	3	学校側参加者(校長(兼学校運営協議会委員)、教頭、事務長、 関係分掌主任、記録) 11名 計19名			
(4)結果の公表	学校関係者評価(保護者アンケート等)の結果とともに、ホームページへ掲載して公表する。		(8)目標の達成度 >	達成 60%(2 8)以上) C(やや不十分 40%(2 2)以上) D	(不十分 40% 未満)	

		自己評価		学校関係者評価	(10) VL /F ID: 0.500 PZ 1 71.545 Mr
(5)評価項目	(6)具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の 達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
地域から信頼され、郷土 及び日本の未来を担う 人材育成の学校づくり	①専門高校の特色を生かした学校づくりを推進する。 A)小学生対象の、ものづくり体験教室の実施 B)小学生対象の、ブログラミング教室の実施 C)ロボット競技大会への参加 D)ものづくりコンテストへの参加 E)校内外の研究成果発表の実施 F)あおもり創造学による「地域企業の魅力発見」	A)小学生ものづくり教室(十和田東小、上北小)を実施した。 B)小学生プログラミング教室(十和田東小)を実施した。 C)本校からはロボット研究部から1・2年生チームと3年生チームの2チームが出場。結果は1・2年生チームが10位、3年生チームが5位でアイデア賞であった。 D)今年度、ものづくりコンテスト旋盤部門で東北大会へ出場。青森県ものづくりコンテストでは「木材加工部門」が第1位と第3位で令和7年度の東北大会へ、ほか「旋盤部門」第4位、「電気工事部門」第2位、「電子回路組立部門」第8位と第9位となった。 E)研究成果発表会県大会(五所川原工科高校会場)は、電気科の3年生が2月に参加。7校中5位と健園。 F)あおもり創造学で、県内企業の魅力や実際の現場で必要な知識や技術を調査・研究し、進路達成や将来のキャリア形成に意欲的に取り組む力を育成した。 【評価項目:教員14,17 保護者3,9 生徒6】	В	目標はおおむね達成されていることが確認された。     企業としても、高校生の採用へ向け、企業もいろいろやっていくことが必要であると考えている。 消防クラブは地域にもとてもメリットがある。地域の消防団が減ってきていることもあり、ぜひ、消防クラブから全生徒へのイベントを企画してほしいと思う。これが一つのモデルにもなり得ると思っている。     来年度、十和田市秋祭りにはぜひ参加してほしい。	ものづくり教育を根幹に据えた学習活動の継続を目指し、専門性を生かし 校運営を図る。 これまで取り組んできた地域内での他校種との交流や、専門性を生かした 生への学習支援活動等の継続と充実を目指す。 各学科による各種競技会等への参加により、生徒の知識と技能の定着を ともに、創造力豊かな人材の育成に努める。
	②地域と連携した教育活動を継続して行う。 A)本校の広報活動(体験入学、中学校での学校説明会、公開授業) B)地域ボランティア活動(学校周辺の清掃・有志による海岸清掃)の 実施 C)地域企業による技術指導、企業見学等 D) 十和田市秋祭りへの参加 E) キャリア教育パートナーシップの発足	A)体験入学では、生徒体験実習や保護者見学そして中学校教員説明会を実現できた。公開授業を4月(1日)・10月末(2日間)の2回実施した。 B)地域ボランティア活動は6月校内外の清掃活動、8月に有志による横浜海岸の清掃活動を、教員と生徒の協力を得て実施することができた。 C)地域企業による出前講座や技術指導、施設体験研修、企業見学を行った。 D) 十和田市秋祭りのパレードへ三本木小唄の流し踊りで参加した。 E) キャリア教育パートナーシップを発足し地域企業に登録していただいた。 【評価項目: 教員41,47、保護者3,19 生徒該当なし】	保護者	【その他・質問等】 ・グランドデザインに盛り込んでいるものは学校独自のものなのか。 ・学校にはAEDはどこに何台あるのか。 ・資格取得の中に、土木関係に取り組んでほしいと思う。建築科と言っても、土木関係に就職する生徒もいるから。	地域企業や関係団体等、他校と連携協力し、地域に根ざした技術者の育努める。 消防クラブの活動を活性化し、将来地域の防災を担う人材を育てていきた 十和田市秋祭りへの三本木小唄流し踊り参加を継続するため、年度当初計画的に調整していく。 生徒の将来を見据えた資格取得について検討していく。
	③生徒の規範意識や防災意識の向上に努める。 A)情報モラル教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室の実施 B)防災避難訓練の計画的実施 C)消防クラブの活動	A)本校の現状に即した内容で情報モラル教室を実施した。生徒指導部通信でもその都度取り上げた。 B)避難訓練年3回実施。実技を伴う内容として各種体験学習を実施した。 C)消防クラブは避難訓練と十和田市総合防災訓練へ参加。将来の地域の防災リーダーとしての育成している。 【評価項目: 教員18,19,38 保護者13,21 生徒7,9,10,16】			生徒の防災意識の向上へ向け、避難訓練等の充実を目指す。 消防クラブによる防災意識の向上と、外部機関と連携した訓練等の実施 来の地域防災を担う人材を育成する。また、十和田市指定避難場所とし 管理等に努め、有事に対応できる機能強化を目指す。
	①確かな学力と主体的に学習に取り組む態度の育成を強化する。 A)基礎知識の習得と技能の育成を目指す B)全校漢字テスト、学年別の学習取組(自学ノート、常識テスト) C)高校生のための学びの基礎診断テストを実施 D)資格取得と絡めた主体的学習態度の育成 E)ICT機器を活用した授業展開と改善を行う	A「数学 I」、「英語コミュニケーション I」で習熟度別授業、「体育」、「芸術 (選択)」、「工業 (工業技術基礎、実習、課題研究)で少人数指導、「論理国語」、「工業 (工業情報数理、製図)」ティームティーチング活用による高い学習効果の実現。少人数制の指導による基礎技能の定着が図られた。 B)全校一斉漢字テスト(全6回)を実施。 (C)学びの基礎診断テストの結果を基に、個々の学習指導へと展開し、確かな学力の定着と保証を目指している。 D)ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導(成就感)が、主体的な学習活動へ繋がっている。 E)外部講師を招聘し、教員へ著作権と生成AIについての研修を行った。また、ICTを活用した授業を実施。授業展開・内容の活性化に努めた。 【評価項目:教員11,12,13,15,16,40,44,48 保護者7,8,23 生徒2,4,5,18】		【その他】 ・学習評価については、教科に任せているとのことだが、学校としての基準を示した方が良い。 ・やる気の出ない生徒へしっかりと指導してもらいたい。 ・情報共有については喫緊の課題である。先生方も仲良く生徒の指導にあたってもらいたい。工業高校の良いところをどんどんアピール	生徒情報(学習指導・進路指導・教育相談・部活動等)、職員の業務内容
学習・部活動・学校行事 等の教育活動における きめ細かい指導。 生徒と教職員の豊かな 人間関係を基本に捉え て社会の変化に即応で きる資質と体力の向上。	②生徒個々に応じた生徒指導とキャリア教育を強化する。 A)生徒理解を基盤とした、いじめの未然防止 B)教育相談、特別支援、スクールカウンセラー(SC)等の活用 C)進路相談、二者/三者/四者面談 D)2、3年生保護者への進学セミナー E)進路講演会 F)3学年入職前研修 G)進路ガイダンス、インターンシップ、企業見学 H)容儀指導、駐輪場指導、登下校指導、校内外巡回指導、家庭訪問等	A)「理由があっても他人を攻撃しない」「他人を不幸にして喜ばない」の2つをベースとしていじめ防止を推進した。日常的に、様々な先生方がきめ細やかに生徒観察や声がけを実施している。また学年、担任による面談が随時行われており、生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っている。 B)スクールカウンセラー派遣を積極的に利用している。支援が必要な生徒に関しては、担任・学年・保護者・SCと連絡を取ることで対応している。 C)「みちしるべ」などを活用したキャリアサポート強化で学年及び学科に応じた適切なキャリア教育を展開することができた。 D)保護者との連携により実施できた。3年次(1学期)の進路指導に係る三者面談を実施。1年、2年次の後半で、二者、三者、四者面談等を実施し、個に応じた生徒指導・進路指導に繋げた。 D)進路講演会として、有名人によるフューチャートーキングを行った。 F) 3学年の入職前研修を行う予定。 G) 2学年全生徒のインターンシップ実施。各学年の進路ガイダンスにより、進路意識醸成や職業観育成の効果があった。 H)さまざまな生徒指導活動と教育活動を通し、自己指導能力の育成(①自己決定の場を与える②自己存在感を与える③共感的人間関係を育成する)を目指す。 【評価項目:教員2,4,20,27,28,29,39,42,43,45,46,49,50 保護者2,10,11,16,17 生徒13,14】	数職員 3.26 保護者 3.36 生徒3.47 平均3.36	徒が入学した来たらどうするのか考えておいた方が良い。 【その他・質問等】 ・習熟度別指導は具体的にどのような指導をしているのか。 ・業務の改良提案の件数は何件あったのか。 ・生徒会と地域の方々との連携があれば良いと思う。	いじめの未然防止と早期発見に向けて、次年度も年3回のアンケートを9る。また、教職員間での情報共有と初動対応に適切に取り組む。 教育相談の充実、特別支援体制の強化、スクールカウンセラー(SC)やスソーシャルワーカー(SSW)の利活用や、外部の関連機関との連携等を通徒理解に努め、生徒に寄り添う生徒指導を行う。 生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図り、より積極的な付信と助言指導を目指す。
	③学校行事等を通した生徒の取組意欲の向上に努める。 A)マナーの向上や豊かな心の形成、生徒主体の企画・運営 B)学校行事及び部活動の精選 C)全校朝読書の充実	A)学校行事は生徒が主体的に企画・運営に携わり、目的を達成できるように工夫を凝らし実施することができた。 B)体育祭は通常通り実施、文化祭は制限なく一般公開を実施した。生徒主体の運営・計画など、活動と発表の場を確保する ことができた。 C)ほぼ毎日、全校一斉で実施。月1回、全校共通の題材を用いた読書活動を実施。共有感と他者理解に繋がっている。 【評価項目:教員22,24,25,26,33,34 保護者15,22 生徒12,17】			学校行事の、生徒が主体的に取り組むことができる立案と実施を目指す。
生徒・保護者・地域社会	者・地域社会への情報提供。 A)中学生への進路選択の情報提供と本校への理解度向上	A)中学生に対する本校への理解啓発のため、近隣の各校へ教務主任・副主任が出向き、中学生・保護者・中学教員を対象とした学校説明会を実施した。 B)ホームページの更新と、中学校に送る十和工だよりの充実を図った。 【評価項目: 教員1,3 保護者1,18 生徒1】	目標はおおむね達成されていることが確認された。 ・働き方改革は継続的にがんばって取り組んでもらいたい。 ・アンケート結果にあった、指導の統一、保護者と話をする機会が 減ってきているのも原因ではあるのでは。 ・保護者向けのマネーブランの研修は5月にやったらどうか。 ・先生方の負担は軽くしたいと考えているので、地域人材をもっと利		地区PTAがなくなったことのデメリットを受け、PTA活動から全会員(全保 へ向け、案内できるイベントの企画立案を目指す。また、学校HPを充実し の情報提供を行っていく。 中学生に対し本校の特徴や魅力を伝えるための広報活動に重点を置き、 者数の増加に繋げたい。
から信頼される教職員、 自ら学び続ける姿勢を 時ち社会の変化に対応 する教職員を目指す。	②保護者と教職員が連携して教育活動を行うPTA活動の推進。 A) 教師と保護者との面談 B)PTA研修会(研修旅行やお菓子作り教室等) C)学校行事(体育祭、文化祭)を利用した連携	A)各学年による三者面談、四者面談を実施した。 B)進路研修委員会による研修旅行、健全育成委員会による和菓子づくり教室(2回)、母親委員会による手作り石鹸教室を実施することができた。 C) 健全育成委員会による十和工祭での登校時一声挨拶運動(2日間28名参加)を実施することができた。 【評価項目: 教員30,32 保護者12 生徒該当なし】	3.27 生徒3.31	8 活用して欲しい。朝読書への読み聞かせの派遣でもなんでも。 者 ・コミュニティスクールとは地域とのつながりである。もっと利用すべ	PTAに係る各委員会等の活動の再開に伴い、保護者や教職員とが連携 強固なものにするため、新たな情報交換等の機会を設定したい。また、J 凝らした学校行事等の実施に努め、PTA活動の充実を図る。
	③わかる授業を目指した授業改善に取り組む。 A)校内研修(研究授業・講演・研修会等) B)教職員研修の実施	A)ICT活用の教員研修やICTを活用した研究授業等、活性化に努めた。 B)県外研修へ9人が参加した。研修報告会を1月に行い、全教員で情報共有を図った。 【評価項目:教員16,35 保護者該当なし 生徒該当なし】	半均3.29		ICT機器を活用した教材研究等の取り組みを継続し、わかる授業を目指業改善を推し進める。 研究授業や校内研修の充実、外部講師等を活用した研修会や授業を積に行い、より効果的な取り組みを目指す。

[1]ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導や、キャリアサポートに根ざした進路指導に取り組むことができた。インターンシップの実施と効果的な利活用に向け、地域企業との連携強化に努める。 [2]ICT機器の利活用を推進し、生徒の確かな学力の定着、及び生徒自らが主体的に学習に取り組む態度を育成する。 [3]教職員間の情報共有と連携の強化、また、地域社会・人材との連携を強化し、教育活動の充実と地域の持つ人材の利活用の充実に努める。 [4]上十三地域の工業高校としての役割を果たすため、技術者倫理を持ち合わせた人材育成に努める。